平成二十六年一月一日 発行
昭和二十二年一月二十四日（第三種郵便物認可）
明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

ときのこえ Good News for Japan

「義の太陽」イエス・キリスト

勝地 次郎

救世軍では、三・一一東日本大震災以後、海外の救世軍からの資金援助を受けて、被災地に仮設商店街の建設支援をさせていただきました。

その一つが、宮城県南三陸町の「さんさん商店街」です。「さんさん」は「SUN SUN」であり、商店街に注がれる太陽の光は復興を願う被災地の希望の象徴とも言えるでしょう。昨年、この商店街を視察させていただいた折り、海辺近くのホテルに宿泊し、その翌朝、水平線から昇りゆく太陽の美しさに思わず目を見張りました。それは、明るく、暖かく、新しい命の芽生えを感じさせる光のように思えました。

「わが名を畏れ敬うあなたたちには 義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て跳び回る。」（マラキ書3章20節）

旧約聖書に登場する預言者マラキは、真実な信仰に生きるイスラエル人に対して、義の太陽なる方が彼らを癒し、生命と回復力を与えてくださる、と説いたのです。義の太陽！ それは、現代に生きる私たちの人生をも癒し、力づけ、真の命へと導いてくださるイエス・キリストを指し示している、と言えるでしょう。

かつて、『菊と刀』の著者ルース・ベネディクトは、日本の文化を「恥の文化」と言い、「日本人ほど、他人が自分の行状をどう考えているかということをおそろしく気にかける民族はない」と言ったそうです。「恥を知れ」とか「人様に対して恥ずかしいことはしてはならない」という考え方は、日本人特有の高い倫理性を産み出してきていると言えるでしょう。しかし、そこには、万物を創造された神に対する思いはなく、「神に対する恥ずかしいことを罪」としてとらえる「罪の文化」は成り立ってきていないのです。

聖書は

「神は御自分にかたどって人を創造された」（創世記1章27節）

と宣言しています。そうであるならば、どうして神の御旨を痛める諸々の悪しき思いやおこないを、罪として告白しないでよいでしょうか。

イエス・キリストの十字架上の死は、人の罪が赦され、神と人との関係が正しくされ、赦された罪人として、人と人の関係も正しくされるためにありました。

「義の太陽」の「義」は、「正しい」を意味していますが、イエス・キリストは、ご自身を救い主として信じる人々の罪を赦し、正しい者としてくださり、その人生を明るく照らし続けてくださる「義の太陽」であるのです。

鳥がその翼をもって自由に飛ぶように、義の太陽なるイエスもその翼を広げ、貧しい人、疎外されている人を慰め、励まし、その悲しみを癒されました。牛舎につながれた子牛が、解き放たれた時、喜びのあまり飛び回るように、真の愛を知り、重荷、苦しみから解放された喜びにまさる喜びはありません。ある人は、主イエスの救いを受けた時の喜びをこう表現しました。

「うれしくてうれしくて、夜、寝ている時、足をばたばたさせたくなった。」

そうです。義の太陽なるイエス・キリストは、今日もあなたに呼びかけているのです。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイによる福音書11章28節）

イエスの愛に触れ、闇から光へと人生が変えられたパウロは、こう言っています。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」（コリント人への第二の手紙5章17節 口語訳聖書）

漆黒の闇を打ち払うかのように昇りゆく太陽の光にも似た主イエスの愛。この愛の光に導かれ、希望と喜びに満ちた新年となるよう心から祈ります。

（救世軍士官〔伝道者・司令官〕）

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

神様は今、生きておられる

高畠 欣男（たかばたけ よしお）

私の少年～青年時代

私は今、救世軍士官（キリスト教の伝道者）として、充実した毎日を送っています。しかし、クリスチャンになるまでの私は、オカルトに捕らわれた生活をしていました。

神秘的なものへの関心は、父方の祖母との出会いから始まったと思います。明治生まれの祖母はクリスチャンでした。戦争中の苦労や満州での生活、不思議な霊的体験など、孫の私に話してくれました。また、伯父は牧師で、幼い頃、伯父の教会に遊びに行っていました。キリスト教の信仰をもつには恵まれた環境でしたが、私は別の影響を受け始めていたのです。

少年時代を送った七十年代は、心霊ブーム・超能力ブームのただ中にありました。オカルト情報満載の漫画や雑誌を読み、高校時代には、月刊のオカルト雑誌も購入していました。当時、オウム真理教も特集を組まれていた時期で、今から思うと恐ろしくなります。

高校三年になると、文系に進むか美大受験かで迷いました。タロット占いをすると、新しい道へ進むようにカードが出ました。心霊現象には無縁でしたが、真の神様とは違う、色々な霊が働いて、当時の私を惑わしていたように思います。

やがて、思春期の鬱々とした心の問題の解決を求め、高価な神秘学の専門書まで購入するようになりました。ノストラダムスの世紀末人類滅亡の予言も流行り、このまま死んだらどうなるのか、という不安も重なって、実に重苦しい青年時代でした。

美の世界に生きがいを求め

幼い頃からのもう一つの興味は、絵を描くことでした。美術系の大学進学を決めたものの、実力が伴っている訳ではありません。そこで美術予備校に通いました。驚いたのは、作品講評の時間です。講師が上手な作品から順に並べていきます。私の作品はどんどん順位を下げられ、中間ほどで止まるかと思いきや、アッという間に最下位です。そこは実力の世界でした。それでも、美大合格を目指し、浪人生活も送り、途中、体調を崩すなどありましたが、どうにか合格しました。

ところが、あれほど憧れた美術大学も、入った途端、私は目標を失ってしまいました。新しい世界を求め、武道系のサークルに入り、お酒もタバコも覚えました。世の中はバブル経済の華やかさ。「ネアカ」が求められ、はじける楽しさを知りました。暗かった青春時代を取り戻したかのようです。

その頃の私を象徴する出来事があります。大学最寄りの駅裏に公園があります。そこで、ある日、一人の見知らぬ青年から、

「キリスト教の話を聞いてください」

と言われたのです。私は煩わしく思い

「仏教徒です」

と嘘をつきました。彼は、それでもいいです、と話しかけますが、私は足早にその場を離れました。当時の私は、生きておられる真の神様から顔を背け、耳をふさいで生き、この世の楽しみを追い求めていました。しかしやがて、卒業の時が来ました。美の世界の追及も半ばに、突然梯子が外されたようでした。

教員生活の中で

卒業当時、長野県の中学校で、美術講師の求人募集が就職課に来ていました。教育実習を経て、教員免許はあるものの、全くの素人。しかし、美しい自然を思い描き、見ず知らずの土地に向かったのです。それから九年間、長野県で教員生活を送りました。

この間に、神様は私に素晴らしい出会いを備えていてくださいました。それは、教員生活二校目でお世話になった美術科主任の先生です。

「自身が絵を描かないのは良い先生ではない」

と、しきりに制作を勧めてくれました。当時、半ば断筆状態であった私を励まし、制作へと押し出してくださいました。「ダメもと」で、紹介された絵画コンクールに出品。すると、何と結果は「大賞受賞」。某テレビ局が後援する日本・フランス両国で行われる展覧会に出席。テレビ、新聞の取材、と、

絵画コンクール大賞受賞作品と

お祭り騒ぎでした。

ところが、全くどうすることもできない時が来ました。生徒指導で大きな問題が続いたのです。私は全力で対応しましたが、問題は広がる一方。教育書を読み漁りましたが、空回りでした。この頃は、絵を描いても落選続き。受賞も過去の栄光で、

「高島さんの存在は忘れられてますよ」

との絵描き仲間の言葉も心に刺さりました。

そこで、その頃、愛読していた霊視能力者（今で言うスピリチュアルカウンセラー）の本を参考に、「先祖崇拝」をしました。聞き書きした家系図を祀り、塩と線香と水を供え、この苦しみから救ってくれるよう、祈りました。早朝の暗い通学路、遠くに見える山々の向こうから先祖霊が来て守ってくれないか、とどんなに願ったことでしょう。しかし、救いはありません。職員室にいても、

「担任は何やってる！」

の同僚の声に身をすくませ、針のむしろに座る思いの日日。すべてが八方ふさがりの時でした。

妻と結婚したのは、まさにそんな頃のことでした。

真の神様との出会い

妻との出会いも、神様のお導きでした。救世軍士官（伝道者）の娘として育ち、クリスチャンである妻の勧めで、毎週日曜日、近くの教会に通い始めました。

しかし、牧師が語る「罪人」とは、（申し訳ないことですが）学級の生徒たちのこととしか思えません。牧師の説教も自らに当てはめて聞くことはありませんでした。当時、妻から、人生の価値観を尋ねられると、「芸術家としての成功」と答えた私です。

その頃は、校外パトロールで生徒に出会っても、噛んだガムを吐きかけられるような状態で、すでにコミュニケーションも取れなくなっていました。自分は教師としてもう終わっている、と、思わざるを得ませんでした。

しかし生きておられる神様はすでに働きかけておられました。何かの折りに、聖書の言葉が心に浮かぶようになったのです。そうすると不思議に、心に力が湧いてくるのを覚えました。

そんなある朝のこと、学校へ向かう道々、

〈こんなに苦しいのはなぜだろう〉

と自問していると、突然、本当の自分の姿が見えてきたのです。一生懸命、生徒に向き合っているのも、先輩教師から受けた指導に従うのも、自分が認められたかったからでした。そこには生徒たちを思う気持ちが欠けた「自己中心」があったのです。

〈これが罪か！〉

と、ハッとしました。この時初めて、生きておられる真の神様の存在を感じました。自己中心の罪深い私のため、独り子のイエス・キリストを十字架にかけてくださり、罪の赦しをもたらしてくださった神様がおられる！　そのことを信じたのは通学路の道の上でした。あまりの衝撃に、誰もいない教室でへなへなと座り込んだあの朝のことは忘れられません。生きておられる真の神様と出会った瞬間です。

オカルトからの解放

次の日曜礼拝で、突然牧師の招きがありました。

「がんばるのはあなたではありません。がんばるのは、神の独り子イエス・キリストです。会衆の中にこの言葉を必要としている方がおられるでしょうか。」

その時見えないイエス様の手がすーっと私の心をつかむのを感じました。涙が後から後から溢れて止まりませんでした。

そして更に感謝なことに、牧師の説教から、新約聖書の最後にある「ヨハネの黙示録」を学びました。神様が未来に備えた真の希望を知ったことで、オカルトで植えつけられた終末予言の恐怖からも解放されたのです。

この救いの経験の後、私は長野市の中学校へ転勤しました。長野市には救世軍長野小隊（教会にあたる）があり、地元の中学校で働きつつ、日曜は聖別会（礼拝）を守る日々。そこで、小隊長（牧師にあたる）より、改めて信仰の導きを受けました。長男誕生の喜びもあり、この年迎えた私の兵士入隊式（正式に救世軍の信徒となることを公にする儀式）は、生涯最良の日となりました。私のために祈り続けた妻や家族に、心から感謝いたしました。

兵士入隊式後、妻と長男と

イエス様の素晴らしい救い

当時勤めた中学校でも、神様は特別な出会いを備えてくださいました。教師として諦めかけていた自分に、もう一度自信を与えてくれた生徒たちと先生方です。

この日々の中で、私たち夫婦は、御言葉を通して神様からの召命を受け、救世軍士官（伝道者）を志願するようになりました。その頃与えられた御言葉があります。

「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」（ガラテヤの信徒への手紙2章20節）

思えば、霊的な探求をした時も、美術の学びの時も、教員として歩む時も、いつも足りないパズルの一片を探していたようでした。しかし、最後の足りないワン・ピースをイエス様が与えてくださいました。イエス様を信じ、委ねて生きる――これ以上に素晴らしいものはありません。

教会に通い始めたばかりの頃、一人の先輩教員が言いました。

「いいなあ。信じるものがあって。俺はいつも不安でいっぱいだよ。」

研究熱心で自信にあふれた先生の一言に驚きました。

今も救いを必要としている人がいる。この素晴らしいイエス様の救いを、これからもお伝えすることは、私たち夫婦の喜びです。

（救世軍士官〔伝道者〕）

家族と

キリトリ

ご氏名

ご住所

□私の近くの救世軍を紹介してください。
□キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

救世軍とは
The Salvation Army

国際的なプロテスタントのキリスト教会で、聖書に示された唯一の神を信じて活動しています。そのモットーは、「心は神に 手は人に」で、人々の必要に応えながら神の愛を伝え、物心両面からの救いを目指しています。

創立は一八六五年。英国のメソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブースが東ロンドンのスラム街で働きを始めました。彼は、当時の社会の最下層にいる人々に神の愛を届けようと、温かい食べ物、清潔な衣類、教育、宿泊所の提供などをおこないました。そして、より多くの人々や社会の必要に応えるため、統率力と機動力に富んだ軍隊流の組織を取り入れて、全世界にその働きを広げていきました。

現在は、百二十六の国と地域で救世軍の働きが進められていますが、どの国においても、創立の精神は脈々と受け継がれ、街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、病人や老人の介護、アルコール依存症者の更生支援、災害被災者の支援などをおこなって伝道しています。また、国際的な協力体制の下、人身売買犠牲者支援や開発途上国の自立支援、フェアトレード（公正貿易）の推進なども積極的におこなっています。

日本での働きは、一八九五（明治28）年に、ブースによって派遣された十二人の士官（伝道者）がやって来て始まりました。日本人最初の士官となった山室軍平は、だれにでもわかりやすい説教と著書で、一般大衆にキリスト教を広めました。そして、失業者への職業斡旋や免囚保護、廃娼運動の推進、結核療養所設立などをおこない、その時代時代の社会福祉、医療面のパイオニアとして活動してきました。現在は四十五の小隊（教会にあたる）と十一の分隊（伝道所にあたる）、二つの病院（ホスピス併設）、二十の社会福祉施設を通して働きを進めています。

昨年十一月、ニュージーランドの救世軍金管バンドーウエリントン・シタデル・バンドが四度目の来日をし、各地で演奏会やスクールコンサートをおこないました。ベルベットサウンドと呼ばれる柔らかい音色で多くの聴衆を魅了し、行く先々で演奏後、楽しい交流の時がもたれました。

☆ 災害被災者への支援活動

昨年も、世界各地で洪水や地震、台風による災害が起こりました。国際的なネットワークを通して、被災地の地元の救世軍に支援金が届けられ、救援及び復興支援の働きがおこなわれました。昨年十一月に台風による甚大な被害を受けたフィリピンには、救世軍の国際本部より災害支援チームと救援物資が送られました。現地ではこれからも長期にわたっての支援がなされます。日本からも三百万円が送られました。

日本国内では、二〇一一年の東日本大震災以来、被災地に対する復興支援活動を継続しています。いよいよ寒さが加わる中、岩手県陸前高田市内の全小中学校に石油ストーブと非常食などを提供。これは、津波警報が出るなど、非常時に電気がなくても使える暖房が必要との要請に応えたものです。また、宮城県女川の離島出島には、新しいウインチが提供され、まもなく非常時の放送設備の支援もなされます。

この三月で丸三年になる被災地では、将来に対する不安やあせりなどを抱えての生活に疲れ、精神的に不安定な状態の人々も少なくありません。救世軍では、物質面での支援とともに、いろいろな機会を通して精神的にほっとできる時を提供しています。

昨年の十一月下旬には、来日中のニュージーランド、ウエリントン・シタデル・バンドが被災地での訪問演奏をおこないました。宮城県南三陸町では、志津川小学校でスクールコンサート、「南三陸さんさん商店街」や近くのポータルセンターでも演奏をしました。その後、女川町へ移動し、夕方の寒さの中、「きぼうのかね商店街」で演奏。子どもたちの知っている曲や懐かしい日本のメロディーも流れ、演奏後は、言葉を越えた温かい交流が各所でなされました。

また、十二月初旬、クリスマスを前に、関東東北チームが岩手県大船渡市にある障がい者施設を訪問。北海道チームは、今年も陸前高田市の保育所や仮設住宅地を訪問。それぞれ、音楽や贈り物で、一足早いクリスマスの祝福を届け、交流の時をもちました。

スクールコンサートで演奏するウエリントン・シタデル・バンド（宮城県で）

社会鍋募金へのご協力、ありがとうございました

歳末助け合い募金の社会鍋が、昨年 12 月中旬から年末まで、全国主要都市でおこなわれました。ご寄付くださった方々、またボランティアで奉仕してくださった方々に、心からの御礼を申し上げます。

皆様から寄せられた寄付金は、各地の救世軍小隊を通して、様々な困難を覚えている方々や街頭生活者への支援、また国内外の災害被災者支援などに用いさせていただいています。

昨年のクリスマスカロルと救世軍社会鍋「プロムナード・コンサート」（東京・池袋）では、来日中のウエリントン・シタデル・バンドが演奏

街頭生活者支援ボランティア募集

街頭での給食サービス（調理・配食）にご協力くださる方を募っています。

期間―2014 年 1 月 10 日～2 月 26 日

配布場所―東京・大手町　常盤橋公園など

●お問い合わせは……救世軍本営社会福祉部

℡　03-3237-0865

創立者　ウイリアム・ブース　大将　アンドレ・コックス（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　勝地　次郎（救世軍本営　東京都千代田区）　http://www.salvationarmy.or.jp

（取扱支部）

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

▼発行日　毎月一日・十五日

▼定　価
一日号一部五〇円（〒六〇円）
十五日号一部六〇円（〒六〇円）
クリスマス特集号（十二月一日号）
一部一〇〇円（〒六八円）
一年分　一三七〇円＋郵送料七二八円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇

発行兼印刷人　救世軍　代表者　勝地　次郎
編集人　齋藤　惠子
〒101―0051　東京都千代田区　神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三三七―〇八八一
発行所　救世軍本営
印刷所　図書印刷株式会社

発行日及び定価

（この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません）